

○議長（横路孝弘君） 田中康夫君。

〔田中康夫君登壇〕

○田中康夫君 衆議院における新しい与党会派、国民新党・新党日本の田中康夫です。

混迷する日本社会の乗数効果と国民生活の消費性向を高めるべく、代表質問を行います。

菅直人さん、二〇〇三年五月十日、民主党代表として諫早湾干拓事業の現場を当時長野県知事だった私と一緒に視察したあなたが、税金の無駄遣い、役人天下りのための事業、小泉首相はこれが変えられなくて何が構造改革かと一刀両断された当時の新聞記事を、昨夜、懐かしく読み返しました。

私の脱ダム宣言を引き合いに出され、首相と農水大臣がやめると言えばとめることは可能だとシンポジウムで断言されたあなたは、諫早湾干拓潮受け堤防排水門開門調査の開始をこの場で改めて厳命されますね。イエス、ノーでお答えください。

「財政健全化に向けた抜本的な改革に今から着手」「無駄遣いの根絶を一層徹底」とおっしゃる菅直人さん。ならば、先月二十七日、スペインで可決した財政緊縮法をどのようにとらえていますか。

私は不思議でなりません、国家公務員制度の見直しを声高に語る民主党は、なぜ地方公務員制度の見直しをマニフェストのどこにも明記しないのかと。あなたが所信表明演説で述べられた、個々の団体の利益を代表する政治との決別は本当だろ

うかと。

ホセ・ルイス・サパテロ首相は、スペイン社会労働党の書記長。が、支持母体の労働組合が公立学校等で大規模ストライキを実施してもいささかもひるまず、この六月から即時、公務員給与平均五％削減へとかじを切りました。

六十歳の定年まで解雇も倒産も無縁な日本の地方公務員の月額給料は、諸手当を除き、控え目に見積もっても、民間事業所の平均賃金の一・五倍余りも恵まれています。

二百八十六万人の地方公務員、六十四万人の国家公務員、合わせて三百五十万人の公務員給与を一〇％削減するだけでも二・五兆円、消費税一分の財源が生み出せます。

財政破綻寸前の長野県で、私は、四十七都道府県で最も低い知事給与へと減額した上で、計五十年間に及ぶ徹夜交渉の最前線に立ち、給与一〇％の削減合意を取りつけ、さらに、就任初年度から退任まで七年度連続、プライマリーバランス、基礎的財政収支を黒字化しました。

プライマリーバランスの黒字化は十年後と、計画経済のごとき悠長な目標を設定する菅直人さん、我が敬愛する経済学者の野口悠紀雄氏が増税で経済成長は語るに落ちた理屈と慨嘆する安易な増税へ逃げ込む前に、隗より始めよ、泣いて馬謖を切つてこそ、あなたが述べる課題解決型の国家戦略です。第二のギリシャに陥るまじ。その覚悟を抱いてサパテロ首相も、労働貴族な官公労の既得

権益にメスを入れたのです。

菅直人さん、辞意表明から所信表明に至るまで丸々十日、問題山積にもかかわらず、あなたの判断で、首班指名の本会議以外、政策論争も法案採決も開店休業の政治空白に陥りました。その十日間、少なくとも見積もっても、企業の倒産は三百五十件、口蹄疫の殺処分対象家畜は十九万頭、自殺者は九百人を超え、日本の借金は一兆円以上も増加。政権交代応援団を自任していた週刊金曜日でも、今度の政権には心が躍らない、現実的と言われて喜ぶ元左翼みたいな菅氏が首相だからとやゆされています。

この田中康夫め、無礼千万と叫びたい衝動に駆られていますか。でも、聡明なあなたは、煙たい存在が周囲に必要とおっしゃっていますね。

私どもの会派には、後藤田かみそり正晴さん同様、警察官僚出身、心優しき亀井静香代表もおります。県知事時代の二〇〇三年、民由合併直後のあなた、小沢一郎さんと三人で民主党の政見放送に出演、全国各地、六十名近い候補者の応援に自腹で伺わせていただいた不肖私もおります。

総選挙中に拝命したネクスト内閣の地方分権担当大臣を、選挙後に、ほどなく、事前連絡もなく、マスコミ辞令であなたから罷免された私です。その能力はともかく、煙たさでは有資格者でありましよう。

代々木ゼミナールのうたい文句を拝借すれば、「親身の指導」、「日々は決戦」。

以上、リーダーシップを持った内閣総理大臣としての真摯な答弁を期待して、地域に根差し、向上心にあふれる日本の中流家庭を共創すべく、国民の悲しみや不安を取り除き、誇りと希望を抱ける切磋琢磨の日本社会の再興を目指す統一会派、国民新党・新党日本の代表質問を終わります。

(拍手)

〔内閣総理大臣菅直人君登壇〕

○内閣総理大臣(菅直人君) 一つ、渡辺議員に答弁漏れがありましたので、答弁をさせていただきます。

永井陽之助先生の憲法観についての御質問をいただきました。

私は、ちょうど大学にいたときに永井陽之助先生が北大から移ってこられまして、またその後、いろいろな経緯で、親しく、長くさせていただきました。いろいろな議論をさせていただく中で、憲法九条について、今、渡辺さんが言われたようなお考え方をお持ちであったかもしれません。ただ、私が議論した中では、そうした憲法九条そのものを題材にした議論はしておりませんでしたので、いわゆる現実主義者という形で論陣を張っておられましたので、そのことについていろいろと話を聞かせていただいたということでもあります。

田中康夫議員に、御質問にお答えをいたします。諫早干拓事業の開門調査についてであります。

現在、政府・与党の関係者で構成された諫早干拓事業検討委員会の座長報告において、環境影響

評価を行った上で開門調査を実施することが適当と判断されたことを踏まえて、農林水産大臣として今後の方向を示すことを検討中と聞いております。まずは、大臣からの検討の内容を聞くことといたしたいと考えております。

公務員給与の削減についての質問をいただきました。

民主党はマニフェストにおいて、国家公務員の総人件費を二割、一・一兆円削減という目標を掲げているところです。これについては、地方分権推進に伴う地方移管、各種手当、退職金等の水準や定員の見直し、労使交渉を通じた給与改定などさまざまな手法により四年間かけて達成する努力をするように指摘をし、給与の見直しについても適切に取り組んでいく所存であります。

地方公務員給与の削減の意思についての御質問であります。

各地方公共団体においては、人件費改革の取り組みを既に実施をしております。給与構造見直し、給与水準を平均四・八%引き下げ、効果額は試算として年間約六千億となっております。地域民間給与水準を一層反映したものとする方向です。全地方公共団体の六割が独自の給与削減措置を実施いたしております。地方公共団体においては、引き続き自主的に改革に取り組むことが肝要だと思っております。

党としていろいろなことを提案することはあると思いますが、内閣総理大臣として直接地方の給

与をどうしようというのは、それこそ地方分権の考え方にやや問題がありますので、そういった意味では、党として議論を進めてまいりたい、このように思っているところでもあります。

増税の景気への影響に関する質問であります。税と財政出動により、お金の潤沢で安定した循環をもたらし、仕事と雇用を生み出すことがデフレを解消し、景気回復につながる道だと考えております。

第三の道は、我が国財政は危機的状況にあると認識しつつ、少子高齢化など経済社会が抱える課題の解決を新たな需要や雇用創出のきっかけとして、それを成長につなげる政策であります。これにより、強い経済、強い財政、強い社会保障の一体的な実現を目指してまいります。

政権の引き継ぎ期間についての御質問がありました。

確かに、前総理の辞意表明から所信表明に至るまで十日間の期間がかかりまして、その間も、少なくとも、前内閣が事務取扱という形で緊急時には対応できる態勢をとっております。十日間の政治的空白については申しわけなく思っておりますが、各党とも、自民党も何度か途中で総理がやめられました。比較的これより長い期間を、空白をもたられまして、今回、民主党としては、できるだけ短い期間でこの空白をおさめた、このように思っているところであります。

最後に、田中議員の方から、煙たい存在の方の、

これは登用についてということになるんでしょうか、確かに二〇〇三年に、民由合併後の衆議院の選挙で、田中康夫さんに、政権担当のときには、今で言う総務大臣に就任をいただきたいということとを、いわば選挙中に公約として出させていただきました。残念ながら、政権交代にまで立ち入りませんでしたので、確かにきちっと申し上げなければいけませんでしたが、結果として、大臣就任のお願いはできなかったということでもあります。

いずれにいたしましても、この内閣で、官房長官を軸とした一体性が必要でありまして、いろいろ個性豊かな議員の方が、それぞれの役割を担って、政権運営に御協力していただけることを期待を申し上げて、私からの答弁とさせていただきます。(拍手)